

公益法人や外国法人（英語）
の財務分析に新視点
Up Down 方式経営分析の応用

公益法人の決算書は多くの場合「予算との比較」を通じて「分析・検討・評価」が行われる。「動向分析の視点での検討」はあまりなされない。

予算書作成においても前年もしくは前期を参考にした決め方が多い。

しかし公益法人とはいえども、一般企業のように「栄枯盛衰」の原理は働く。
むしろ、業界団体の決算書は、業界の浮き沈みを知る最良の情報とも言えなくもない。

二期比較と二項目の増減比較を手段とする Up Down 方式経営分析は、全く新しい視点を公益法人会計にもたらしかもしれない。

「公益法人会計の知識を得る」よりも「公益法人の動向を知る」方が、はるかに興味深く、実利があると考えられる。

次に「英文決算書」の解説書は、決算書の英語表現や、英語圏の会計基準と日本の会計基準の相違点から解説が始まるのが多い。

「英語による決算書表現の勉強」は簿記や決算書を理解する良い手段であるなどの指摘もなされる。

しかし、ここでも外国企業の二期比較と二項目増減分析、つまり「動向分析」の方がはるかに興味深く、実利があると考えられる。

以上、前者は「公益法人会計という特殊な会計知識」後者は「外国語知識と各国間の会計基準の違いの知識」が直接的な「動向分析（経営分析の要諦）」の妨げになっている。

余談だが、国家財政についても同様なことが言えるかもしれない。経済に関する国会討論について「議論が、かみ合わない場合」が多いのは、二項目もしくは複数項目という「複眼的議論」ではなくそれぞれの党派に都合の良い「単体項目による議論や主張」が多いからだと考えられる。

Up Down 方式経営分析の応用範囲は広い。